

2022年度第1四半期決算説明資料

発表日時：2022年8月2日（火）16:45（今回、説明会の開催はございません）

【2022年度第1四半期決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 売上高は、燃料費調整額の増加などにより増収となりました。
- また、経常損益は、グループ全社を挙げた収支改善に努めたものの、JERAにおける燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことや、燃料価格の高騰等による電気調達費用の増加などにより減益となりました。
- なお、2022年度業績予想については、ウクライナ情勢等の影響を受け、燃料価格および販売電力量の見通しが不透明であり、具体的な業績予想をお示しできる状況にないことから、現時点で未定としています。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比 50.7%増の 1 兆 4,764 億円と増収、経常損益は 674 億円減の 489 億円の損失と減益となり、特別損益を加えた四半期純損益は、前年同期比 640 億円減の 670 億円の損失となりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド4と5では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。
- 売上高は、卸電力販売の増加などにより、138 億円増の 1,311 億円となりました。
- 経常損益は、基幹事業会社からの受取配当金の減少などにより、前年同期比 167 億円減の 1,099 億円となりました。

- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、JERA における燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことなどにより、前年同期比 398 億円減の 96 億円の損失となりました。

- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。

- 売上高は、エリア需要の増に加え、インバランス料や他社融通、最終保障供給の増などにより、前年同期比1,197億円増の5,290億円となりました。
- 経常損益は、電気調達費用が大幅に増加した一方、減価償却費の減少などにより、前年同期比14億円増の361億円となりました。

- 続いて、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、燃料費調整額の増加などにより前年同期比3,934億円増加の12,018億円となりました。
- 経常損益は、燃料価格の高騰等による電気調達費用の増加などにより、前年同期比533億円減の908億円の損失となりました。

- 最後に、東京電力リニューアブルパワーの業績です。
- 売上高は、卸電力販売などの増加により、前年同期比56億円増の467億円となりました。
- 経常損益についても、卸電力販売が増加したことなどにより、55億円増の216億円となりました。

- なお、セグメント別の前年度比較資料をスライド8以降に参考として添付しております。

【連結特別損益の概要】

- 次に、連結特別損益についてご説明します。スライド6をご覧ください。
- 特別損失に、原子力損害賠償費として、252億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は、前年同期比46億円減の252億円の損失となりました。

【連結財政状態の概要】

- 続いて、連結財政状態について、スライド7をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より0.2ポイント好転し、25.1%となりました。これは、四半期純損益が赤字であったものの、その他の包括利益累計額の増などにより、純資産残高が増加したことによるものです。

【結び】

- 最後に、これまでご説明しました通り、当社の経営状況は大変厳しい状況にあると認識しております。
- 特に、エネルギーパートナーセグメントは大幅な赤字となりましたが、今後も燃料価格の高騰が続く場合、さらに収支が悪化することが予想され、大変な危機感を持っているところです。
- こうした状況を踏まえ、グループ大で徹底的な合理化を進めておりますが、併せて、お客さまの電気料金の抑制にもつながる節電について、当社としてできるサポートをさらに充実すべく検討を進めてまいります。

【参考資料（スライド8以降）、補足資料（スライド13以降）】

- スライド8以降は参考資料および補足資料です。

以 上